



加治木 だよ

創立百二十周年記念
歴史と歩を刻む

校長 原口 和哉

蝉の声に夏の盛りを感じました。保護者の皆様には、平素から本校教育活動に多大なるご理解とご支援を賜り心からお礼を申し上げます。

本校の前身である日制中学校が、ここ島津家ゆめく頃になりました。保護者の皆様には、平素から本校教育活動に多大なるご理解とご支援を賜り心からお礼を申し上げます。

本校の前身である旧制中学校がここ島津家ゆかりの地に創設されたのは、明治三十一年日清戦争直後のことです。当時、松城小学校谷山初七郎氏をはじめとする郡内各村の有志一同が、川内地区に中学校設立の動きがあることを察知され、熱誠あふれる請願活動をされると同時に、地域の方々からの物心両面にわたる強力なご支援をいただいたことにより、この地に鹿児島県尋常中学校第二分校が誕生し、本校の歴史が始まりました。それから数えて本年度はちょうど百一十年目にあたる記念すべき年になります。この間、県内屈指の伝統を誇る進学校として、確固た

感謝する心を忘れないように



PTA会長
高野 浩一

半年が過ぎ、一学期も終了する中、一年生の皆さんは、学校の環境(雰囲気や授業に慣れただけで、どうか。二年生の皆さんには、学習のレベルが上がり、部活動においても三年生が引退した後、下級生を引っ張っていくを中心的存在として頑張っているのだと思います。そして三年生にとっては、各自の目標に向かって日々学習に励んでいると思います。皆さんにとって高校生活の三年間は、これから的人生において一度きりしか来ない貴重な期間なので、一日一日を大切に過ごしてもらいたいと思います。

さて、皆さんには日常生活を送っている中でどうい

う時に感謝の思いが湧いてきますか。何か手伝いをしてもらったり、荷物を持つもらったりした時に感謝の気持ちが湧いてきて心の底から自然に「ありがとう」の言葉が出てくると思います。

「感謝」の意味を調べた時に「ありがたい気持ちを持つたり、それを言葉にしたりすること」とあります。ありがたい気持ちを持つ、そして、それを言葉にすることに対することを私は忘れてはならないと願っています。全ての事柄に対して感謝することは難しいけれど、一日を振り返った時に小さい感謝がなかつたか思い出すのも良いのではないかと思います。

先日、ニュースを見ていたら【インターネットで影響力のある二十五人】として、八歳の女の子が紹介されました。この女の子はシリアの子供で、今シリアでは内戦が起り、内戦の惨状を母親の手を借りて、ツイッターを介して世界に発信していたそうです。その中で、爆撃によって女の子の友達が亡くなつたこと、女の子の家も爆撃され破壊されたけれど

世界では、まだまだこれと似たようなことが起きています。このような現状をニュースや新聞などで目にした時、いつもと変わらない時間は何事もなく過ぎることができます。また、生活する場所があり、水や食べ物があり、私は本当に生きて家族と一緒にいられるることをとても感謝しました。

『あなたがいかに恵まれているのか知るには、ただそれを数えてみればいい。人生すでに与えられている幸運に気づくことが鍵だ。その対象が何であれ、感謝をすればさらに大きくなり輝いてくれる』これは、感謝について調べていて抜粋した内容です。

これから近い将来様々な分野で活躍していく皆さん、が自分の目標に向かって毎日忙しく歩んでいくその間、苦労や苦難が待ち受けているかもしれません。が、感謝の心を忘れず、心の底から「ありがとう」と言える皆さんでいてほしいと願っています。

すでに第一回海外短期研修では、選考会で選ばれた十名が、九回の事前研修を重ね三月二十五日から四月五日の海外短期研修に参加しました。四月二十二日には報告会を行い、全校生徒で貴重な経験の共通化を図りました。生徒にとって大きな刺激となつたと思います。

第一回国内派遣事業では、昨年のプレ実施を基に選考会で十二名を選出し、八月一日～三日に東京の企業見学、大学のオープンキャンパスへの参加を予定しています。

現在の変化の激しい社会、グローバル化、AI・テクノロジーの進化の中でこれからの人たちは、働き方

県の「未来を拓く！県立高校学力育成支援事業」のA
I研究指定校として新しい入試に対応できる学力
を付けるための授業の研究を進めています。
生徒たちも進路実現に向け日々の授業や部活動
に一生懸命取り組むとともに、「龍門の櫻」先人を超
えて「歩を刻め」の生徒会スローガンのもと、様々な
学校行事を盛り上げ、更に充実した行事にしようと
主体的・意欲的に取り組んでいます。
これからも教職員が一丸となり、保護者・同窓会・
地域の方々と連携しながら、本校の発展につなげ
いきたいと存じますので、今後ともご支援・ご鞭撻の
ほどよろしくお願いします。

る地位を築き、これまで三万を超える優れた人材を輩出してまいりました。

この大きな節目の年に、これまでの歴史や伝統を振り返ることも、これからの方々を展望していくたいと思います。

創立百二十周年事業としまして、海外短期研修や国内派遣事業、吹奏楽部楽器贈呈、龍門会館内生徒宿舎

雇用状況も大きく変化すると言われています。その中で、たやすく生き抜いていくためには、学力の三要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度)が求められています。現在この学力の三要素を多面的に総合的に評価する入試に転換する高大接続改革が進められています。この大きな改革の中で、本校では国

第 43 号
2017.7.20
加治木高等学校
P T A 発行

〒899-5214
鹿児島県姶良市加治木
仮屋町211番地

各部及び生徒会より
部活動大会入賞記録 P 6 · 7
P 8

世界に貢献する

一学年主任 細瀧茂喜

“Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country”. 今年3月、卒業式の答辞で、元生徒会長中園志君が引用した英文です。これは第35代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディが述べた1961年の就任演説の一説です。有名な言葉で、その意味するところは皆さんもおわかりだと思います。中園君は、世界に貢献するという自らの決意を表す際に、この一説を紹介してくれました。私は彼の強い思いに感動したことをよく覚えています。加治木高校で3年間学び、世界に貢献するという意思を強くした、ということだったのでしょうか。

さてその加治木高校を特徴づけるものとしてすぐ思い出すのが、校是と生徒会宣言です。私はこの二つを目にするたびに、この学校で働くことへの誇りを感じています。皆さんも校是の実現や、生徒会宣言のように生きていこうと考えることが多いことでしょう。さてこの生徒会宣言にある「我々は地域に貢献する」にもあるように、加治木で学んだ若者は社会に有益な人材に育ってほしいと思います。去年から始まった同窓会主催の海外派遣事業も「加治木高校生が世界に貢献できる人材に育ってほ

しい」という思いから始まったと聞きました。勿論皆さんも充分意識しているとは思いますが、自分の事だけではない、地域のため、日本のためそして世界のために貢献できる人間になってほしいと思います。

ケネディー大統領は先ほどの演説に引き続き次のように呼びかけています。My fellow citizens of the world: ask not what America will do for you, but what together we can do for the freedom of man. アメリカが圧倒的な影響力を持っていた時代で、上から目線は気になりますが、彼には世界そして人類が視野に入っています。奇しくもこの演説からおよそ半世紀、同じアメリカ大統領のトランプ氏が先日、温暖化対策をまとめたパリ協定からの離脱を次のように語りました。In order to fulfill my solemn duty to protect America and its citizens, the United States will withdraw from the Paris climate accord.

この二人の演説に皆さんは何を思うでしょうか。勿論、前後の文脈を見ないで単純な比較は避けた方が良いのかかもしれません。しかし私たちはより広い視野を持って世界のために貢献していかねばならないと、この二人の演説に触れて改めて思うのではないでしょうか。小さいことで構わない、生徒の皆さんには世界に貢献していくってほしいと思います。

当たり前のことを当たり前にすること

生徒指導部主任 藤崎 覚

加治木高校に赴任してはや三年目になりますが、加治木高校は人や物の環境が整い、自分を高めるにはもっていいの場所であると改めて思います。その環境の中で仕事ができることに感謝をし、そのことは私自身、当たり前のことではないことを肝に命じたい。

普段の学校生活、これから社会生生活で「当たり前のことを当たり前にやる」ことというのはとても重要で難しいことだと思います。当たり前のことをいうのは、挨拶であったり、返事であったり、学校生活を送る上で当然のことです。まだ高校生ですから、恥ずかしがつたり、したつもりでもできていなかつたりということがありますが、相手の気持ちを考え、相手の心に響く挨拶や返事ができるよう心がけたいのです。相手は何を求めているのか、その期待に応えなければできることにはなりません。日頃の生活の中では、相手の心を読んで行動しなければならない場面が必ずあります。何で自分は叱られているのか、親であつて

も先生であつても、この人はどんな思いで自分を叱っているのか、そこが理解できれば、自（おの）ずと前後の行動や態度が変わってくると思います。

生徒のさんは、今後の人生をよりよく生きるために加治木高校を選択し頑張っていると思います。人生で成功する人になつてもらうためにも、当たり前のことを当たり前にやり、人に優しく思いやりのある生徒づくりを目指して行こうと思います。



ナマケモノ

進路指導部主任 福元裕樹

前生徒会長 幸喜一真

つながりを大切に

新生徒会長 四本裕亮

櫻

私は生来のナマケモノだと思う。ぼおと海や山を眺め楽しく生きたいと願っている。勉強も当然のこと苦労せずに結果を出せればとつい考へてしまふ。ところが世の中そんなに甘くない。どんなことも努力なしに結果が出せるなどありえない。

数学史上最も重要な書物のひとつ『原論』の著者ヨークリッド（エウクレイデス）が、エジプト王トレミー（トレマイオス一世）に「もつと簡単に幾何学を学ぶ方法はないのか」と聞かれ、「幾何学に王道なし」と答えたといふ。王道とは、王にだけ許される、努力なしに簡単に学ぶことができる方法のことだ。たとえ王といえども安易に学ぶことはできないと戒めている。名著『数学の歴史』（カツツ）には人類が数千年をかけて築き上げた知の成績が記されている。数世紀にわたり多くの才能が注ぎ込まれたものが多いことに気づかされる。

私がもつとも勉強したと思える時期は、中学三年と大学四年のときである。父の仕事で中学一年から二年生にかけて赤道直下インドネシアで暮らした。日本人学校があつたものの、中学部は全部で六人の複式授業、しかも尋常ではない暑さのため午前中で授業終了といふ。でも私より成績が悪い生徒がいること驚いた。これではいけないと一念発起、黒板にかじりつき、教科書丸暗記で必死に勉強した。塾などまだ珍しい時代で、中学二年分を独学でやり直した。

大学四年では、関数解析学を攻し、線形位相空間と超関数を勉強した。週に一度のゼミでテキストが英語、サブテキストが仏語の数学書の内容を教授の前で説明する。昼は寝て夜に勉強するという昼夜逆転の生活が十か月、その間、毎日十三時間勉強した。難解で理解できない暗闇の中をもがき続けた。私の中で、数学の勉強＝苦行という等式が確立された。それ以来、数学が面白いという輩は信用しないことにしている。

これら

の経験を通して脳体力だけは身についたと思う。後年いろんな場面で役に立つた。実社会では自分一人で粘り強く考へることがある。ナマケモノの気持ちが先行しそうになるが、大事なことは「急がば回れ」で基本からしつかりやらねばならない。

四十歳になつて大学院で勉強する機会があり、暗号理論と量子コンピュータについて勉強した。多くの文献に目を通し、畠違いの量子理論を即席で学んだりと若いころの経験が活かされた。教授から三か月はかかると言われた量子コンピュータのシミュレーションプログラムを一週間で作り上げ披露したら、卒業まで半年を残してゼミの終了を宣言されてしまった。

若く熱い年代に勉強で苦労すること一生の宝物になる。加治木高校生にはもつともつと勉強してほしい。みんなには私よりも大きく輝く未来が待つている。

この一年間で経験したたくさんの出会いの一つ一つが自分の中で生きていることを今になつて強く感じている。加治木高校に入校して以来、たくさんの人に出会い支えられてきた。生徒会長に就任した時、私は加治木高校での出会いに恩返しをするという思いを一番に活動しようと決めた。日々、がむしゃらにやつてきたがやはりうまくいかないこともあつた。そんな時に支えてくれたのは、生徒会の仲間であつた。共に同じ志を持ち、前に進むことのすばらしさを深く知ることができた。

加治木高校のすばらしい所は、一人一人が自主性を持っており責任感が強いことだ。このことを私が一番実感したのは、行事での準備や片付けの時である。自分がから進んで作業に取り組む者がほとんどで、中には周りに指示を出し場をまとめている者もいる。

誰かに評価されないとこ

手を抜かず、責任を持つて仕事ができるところは加治木高校生の一番の強みであり、いいところである。

このことは、普段の勉強や部活動においても十分に發揮されている。今年のスローガンである「龍門の櫻 先人を超えて歩を刻め」のように、この強みを受け継ぎ、さらに強いものにしていくつもりたいと思う。

これから加治木高校生に期待したい。任命式を終え、新体制での活動が始まりました。まだまだ仕事は拙いところが多くあります。役員全員やる気のみなぎっています。加治木高校に入学した当初、私は知っている人がほんとんどおらず、不安でいっぱいでした。ですが、同級生や先生方、まわりの方々がみんな助けてくれ、励まされ、今日までがんばることができ、人と人の「つながり」の大切さ、素晴らしいと思います。

昨年度、生徒会活動の一環として鹿児島マラソンのボランティアに参加しました。走つている人に、「がんばつてください」と応援すると、笑顔で「ありがとうございます」と答えてくれる方がたくさんいました。このように様々な活動の中で「つながり」を感じられました。

今年は創立百二十周年の記念すべき年です。先輩方がつないできた歴史や伝統を受け継ぎ、後世へ伝えていきましょう。龍門祭や創立記念式典など、様々な行事がありますが、これらは生徒会役員だけでは成功させることができません。加治木高校生全員の力が必要です。今年度の生徒会スローガンは「龍門の櫻 先人を超えて 歩を刻め」です。生徒全員で櫻を受け取り、新たな歴史を作り上げていきましょう。

皆さん

の先頭に立つにはまだまだ器量が足りないかもしませんが、『進化し続ける加治木高校』を目指し、みんなの学校生活を向上させることができます。できるよう、精一杯がんばります。一年間よろしくお願ひします。

